



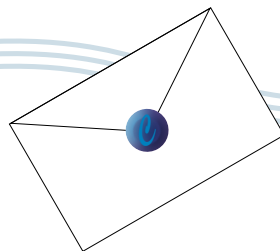
領域代表からのご挨拶

領域課題名	競合的コミュニケーションから迫る多細胞生命システムの自律性
略称	多細胞生命自律性 Multicellular Autonomy
領域代表	井垣 達吏 (京都大学 生命科学研究所)

春の季節はいつも悲喜こもごもです。研究室で長きにわたって苦労や喜びを共にした仲間たちが巣立っていき、その代わりに夢と希望に溢れた新たな仲間たちが加わります。双方の間には直接的な相互作用はありませんので、もちろん競合ではありません。運や偶然など、様々なストカスティックなファクターによって決定されるリモデリングのようです。本領域の公募班でも、悲喜こもごものリモデリングが行われました。加わっていただいた新たな領域メンバーの方々と共に、残りの2年間を全力で走っていきたいと思います。

昨年京都賞を受賞された柳町隆造博士は、「今から50年後に咲く花は今無視されているかバカにされているものです」とおっしゃっていました。そういう研究を切り拓きたいものですが、花咲かせるところを担うのも重大な仕事です。今からちょうど50年前、MorataとRipollによって初めて細胞競合を記述した論文がDevelopmental Biology誌にサブミットされました。その後、バカにはされていませんがほとんど無視されていた時代が30年ほど続きました。その後の20年間で、細胞競合も少しずつポピュラーになってきました。そして今、そのメカニズムの一番大事な部分がようやく見えつつあると感じています。基本メカニズムとその進化的保存性が明らかになれば、まさに花咲く季節が始まるはずです。本領域がそれを先導していきたいと思っています。

今年の9月には新体制での領域班会議、そしてそれに先立って細胞競合国際シンポジウムを京都で開催します。コロナ後初めての細胞競合の国際会議です。Morataさんを始め、世界の細胞競合研究のリーダーたちが一堂に会します。夏の終わりの京都で皆さまにお会いし、熱くサイエンスを語り合えることを大変楽しみにしております。



2024年4月17日

領域代表
井垣 達吏